

無理なく実践できる新聞活用の取り組み

宮崎市立倉岡小学校
教諭 森 俊 幸

1 はじめに

本校は、2019年度よりNIE教育実践の指定を受けた。1年目は、児童も職員も無理なく取り組み、教育効果につなげることを念頭におき、実践を重ねた。

2 本年度の取組

(1) NIEに関する校内研修

夏季休業の中で、職員研修を行った。外部講師として、高千穂町立上野小中学校の田崎香織指導教諭(NIEアドバイザー)を招き、研修を行った。

研修では、新学習指導要領が求めている資質・能力を育むには、NIEが重要な役割を果たすことを、様々な実践例の演習を通し、教えていただいた。この研修を受けて、本校職員の共通理解として確認した点は、以下のとおりである。

- 新聞活用が上手になることが目的ではなく、児童の「基礎的・汎用的能力の育成」「自立した社会人・職業人の育成」を叶えるために、新聞を活用する。
- 特別なことをするのではなく、無理なく実践できることが大切である。
- スパイラルで新聞活用をしていくことが効果的である。

このことから、本年度は、NIEのために特別なことを設けるのではなく、今までどおりの授業や、それ以外の活動で、無理なく新聞を取り入れて実践していくことを職員全体で再確認した。

(2) 新聞購読及び配付について

実践指定校による無料での購読を、以下の表のような計画で行った。

	新聞名	配達月(2019年度)						
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実践指定校による購読紙	朝日	1	1	1	1			
	毎日		1	1	1	1		
	読売			1	1	1	1	
	日経				1	1	1	1
	宮日				1	1	1	1

届いた新聞は、3～6年生に日替わりで配付した。週に1回届く、定期購読のこども新聞については、1・2年生と図書室に配付した。

3 成果と課題

(1) 成果

- 新聞を教室にストックしておくことで、児童が自ら新聞を活用する姿が見られた。また、授業で活用する際も、わざわざ準備をする必要がなく、負担軽減へとつながった。
- 委員会活動に取り入れたことで、授業外でも継続して新聞を活用する流れを作ることができた。

(2) 課題

- 低学年に対して、新聞を活用した実践があまりできなかった。先行実践を参考にし、来年度取り組んでいきたい。
- 中・高学年においても、授業での実践を深めていきたい。